

カバコ結  
櫛卷



〔歴世女裝考<sup>四</sup>〕おばこ結 櫛卷

今の市婦等、蛇盤たるやうの状をなして、髪を結ぶをおばこむすびといふ、その名義はおもひえざれど、西土に似たる事あり、○中略

武野俗談に、寶曆中淺草寺内お福茶や二十いふ間に、みなとやお六とて、名だいの女ありて、髪も上手にて櫛をさかしまに巻こみて結び、是を櫛卷とて、世上の女ゆふ事となれりとあり、明和中、祇徳が句に、櫛卷に春の柳や三日の月、又柳樽編三櫛卷は、姫の身持のくづし初、これらにて其流行をたるを、まゐるべし、おのれ此書を作るにつけて、むかしの女風をおもひいだすに、二百年前はなにもあれ、一風おこれば、その風三四十年も變ざりしに、百年以來は、十年を不期、五十年來は、三年を不待、然なるにかたは、づしの二百年かはらざるは、女裝中の美事也、